

1. 実況上の着目点

① 沿海州から日本海には 500 hPa5700~5820m の優勢なリッジがあって東進。日本海北部には高気圧があって南東へ移動。

② 華北には 500hPa5760~5820m のトラフがあって東進。前線が華北から黄海へのびている。前線近傍やその南側では下層暖湿気 (850hPa 相当温位 345K 以上) が流入し、下層収束も明瞭で対流雲が発達。

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①のリッジが26日、北日本から東日本を東進。26日の東日本や西日本は広い範囲で日中の気温が上昇し、最高気温 30℃の真夏日になる所が多く、日本海側を中心に 35℃以上の猛暑日になる所がある見込み。熱中症対策など健康管理に留意。

② 26日の西日本は、日本の東にある高気圧の縁辺をまわる下層暖湿気 (850hPa 相当温位 345K 以上) が入るため大気の状態が不安定。南西斜面など局地的に対流雲が発達しやすい。落雷や突風、短時間強雨に注意。

③ 1項②のトラフの東進に伴い、26日朝には1項②の前線上の黄海で低気圧が発生し東進。26日夜には日本海中部に進み、最大風速 35kt [GW] 級となり、27日未明には最大風速 40kt に達する。低気圧は27日朝以降閉塞し、閉塞点上に新たな低気圧が発生し、その低気圧が27日夜には根室付近まで進む。低気圧や前線に向かって西回りで下層暖湿気 (850hPa 相当温位 345K 前後) が流入するため、大気の状態が不安定で、対流雲が発達しやすい。27日の東北日本海側や北海道では大雨のおそれがあり、下層風が 850hPa で 50kt 以上と強まる所があるため、雷を伴った激しい雨の降る所がある見込み。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒・注意し、落雷や突風、降ひょうにも注意。27日は、東日本や西日本でも下層暖湿気が入るため、局地的に対流雲が発達し、雷を伴った激しい雨の降る所がある見込み。低気圧や前線の周辺では26日夜から27日にかけて、気圧の傾きが急となるため、北日本から西日本では強風や高波に注意。特に日本海では南西強風が継続し、吹送距離が長くなるため、しける所がある。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

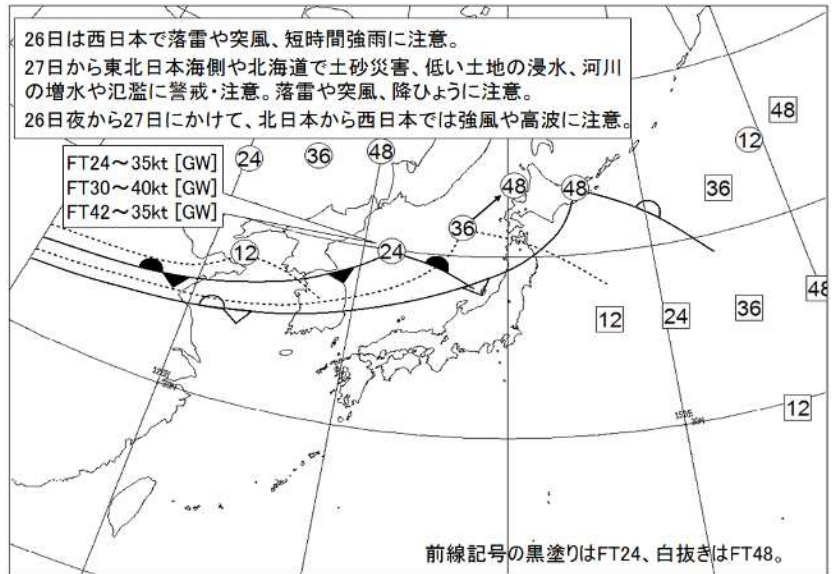
総観場は最新の GSM を基本としているが、前線上の低気圧の位置は MSM を参考に修正した。量子想や降水分布は MSM を参考とする。

4. 防災関連事項[量的予報と根拠]

① 大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(100mm 以上)はない。

② 波浪(明日まで)：北海道・東北・北陸・中国 4m。

5. 全般気象情報発表の有無 5時頃に「大雨に関する全般気象情報」を発表予定。



主要じょう乱解説図